

“至 誠”（新たなる歴史に向けて）

校長便り 2019年度 第8号

2月に入り、3年生が家庭学習に入った。校舎を歩いていても何か広くなったな、と感じる。6日には前期の高校入試が終わり、4月からの新入生の約半数の入学が内定した。もう1か月もすると皆さんは1学年ずつ上がって先輩となる。この1年間の成長はできただろうか。私が出す「校長便り」もあと2回、この1年間の（特に新たな試みを中心に）振り返りを行ってみたい。（いつも言うように私の講話等は1回5分を超えることはない。したがって言い足りないことも多いがそれはこの「至誠」に加えて「莖」の巻頭言、「PTA便り」の校長挨拶をぜひ読んでほしい。）

1. 部活動、地域連携

今年も部活動においては全国レベルでの大活躍が見られた。昨年、一昨年とテニス、ハンドの全国優勝、バスケットの全国ベスト4とあまりにもビッグなことが多すぎて、それに比べると少し地味な感じがするが実は活躍のすそ野は広がっている。昨年、全国大会出場が10クラブだったのに対して今年は12クラブ。ハンドの国体ベスト4を筆頭に、全国入賞がギタマン、テニス、陸上、ITCと目白押し、個人レベルでもテニス部がデフテニスの世界選手権金メダルや国際大会（カンボジア）等の代表、ハンドではU20、U18、U16と各年代別の日本代表を輩出するなど（ハンド部2年の加藤さんは東京オリンピックの聖火ランナーにも選ばれている）、本当に「すごい」としか言いようのない大活躍だった。ほかのクラブも県大会金賞、東海大会出場などすごく頑張っているのを書ききれないのが残念。せめて校内の皆さんは「PTA便り」部活動の紹介のコーナーをご覧ください。

地域連携においては、今や四日市市の高校生との連携において本校を抜きにして考えることはできまい。ギタマン、吹奏楽、バトンの、自治会や同窓会、市内のイベントへの参加・貢献はますます広がりを見せ、今年度は加えてインターアクト、華道部も四日市の国際交流に参加してくれた。3年生の課題研究では菰野町、本町商店街、市内企業とのコラボ、小中学校への派遣事業など幅広い活動を行った。各授業レベルでもNPO、大学、行政とのコラボによる研究やプレゼン会など活動・連携の幅が広がっている。ただ、私が少しだけ残念だったのは、個人レベルでもっと様々なイベント・研究会等に参加者が増えてほしかった。今年度は県の「いじめ防止サミット」、「大四日市まつり」へのボランティア参加など個人での活動も増えてはいるが、自分で考えて（主体的に）校外の連携、活動がもっとあれば、皆さんの能力はもっと高まっていくことだろう。すでに紹介した四日市まつりの「山車保存会」、5月には四日市でB1グランプリも開催される。様々な企画に積極的に参加することで経験と気づきの力を手に入れることをぜひとも来年度以後の課題にしてほしい。

2. 2年生の皆さんへ

4月から最終学年になる2年生にはぜひとも「課題研究」を積極的に行ってほしい（もちろん、授業である科目はすべて大切にすることは言うまでもないが）。皆さんが生きる社会は Society 5.0 と呼ばれている。そこでは自らが考えて行動することが必須のアイテムになる。そのための探究活動、探究的な学びは将来への大きな力になってくれるはずだ。新学習指導要領では、このような社会の到来を前提として小学生から英語4技能やプログラミングを全員必修で学んでくる。そんな人たちと将来社会で共生する皆さんは「自分で考え」「課題を発見・解決する」力をぜひともつけておくべきだ。加えて、社会に出てから「学ぶ」姿勢も必要だ。来年度は最上級生。半数以上の皆さんは就職して社会に出ていく。現時点では普通科の生徒に比べて「社会で生きる」ための基礎力において皆さんは（これまでキチンと学習していれば）アドバンテージを持っている。しかし、社会に出て『学ぶ』ことを忘れてしまえば、そのアドバンテージは、大学等で様々な能力を身に着けるであろう普通科等の生徒に対して数年で消え去ってしまう。ぜひ、AI社会、Society 5.0の社会に対応するにはどうすればいいのかを（校内だけでなく校外でも）考え、行動してほしい。

3. 1年生の皆さんへ

1年生は情報マネジメント科が1クラス減になり、全体での定員も6クラス、240名定員になった学年である。教育課程も修正したこの学年はトライアルとしていくつかの実践を行っている。例えば、「学びの基礎診断」を初めて4月、10月と年間2回実施し、学習のプロセスを数字として見るようにしたこと。その結果、4月と10月で普通教科である「英数国の結果が全体として全く下がっていない」ことがわかった。この表現に違和感を覚えるかもしれないが、もともと普通教科の授業数が少ないこと、専門教科の商業系に勉強がシフトすることで、通常、商業高校においては英数国の成績は下がる（ケースが多い）。しかし、少なくとも入学後半年経った時点での皆さんの成績は全く変わっていない。それどころか、国語において記述問題の成績が半年で驚くほど伸びている（ベネッセの話では半年間でこれほどアップしたのは全国的に見てもほとんど例がないらしい）。もともと、4月の段階では、本校の特徴として「全体的に成績の良い生徒が多いが、記述の部分に弱点がある」と分析が出ていたので、さらにびっくりだ。記述の成績が上がるということは、私の経験上、思考力や読解力も伸びている可能性が高いので、これは自信にしている。ぜひ、2年生以後では授業はもとより、様々な地域連携事業に参加して経験を積むことで探究の力を伸ばして欲しい。

(2月25日)